

2030 VISION

「走る歓び」で移動体験の感動を量産するクルマ好きの会社になる。

1. マルチソリューションで温暖化抑制に取り組み、持続可能な地球の未来に貢献する。
2. 心と身体を見守る技術で、誰もが安全・安心・自由に移動できる社会に貢献する。
3. 日常に動くことへの感動や心のときめきを創造し、一人ひとりの「生きる歓び」に貢献する。

2030年に向けた経営基本方針

マツダ経営基本方針

・ 地球温暖化抑制への貢献 ・ 安全/安心なクルマ社会の実現 ・ ブランド価値経営の継続

主要取り組み

■ カーボンニュートラル（CN）

地球環境を守り持続可能な循環型社会に向け、クルマの「つくる、はこぶ、つかう、もどす」の過程をスコープにした、CNの取り組み。



■ 電動化

内燃機関、電動化技術、代替燃料など、さまざまな組み合わせとソリューションを持ち地域の電源事情に応じて、適材適所で提供していく「マルチソリューション」の取り組み。



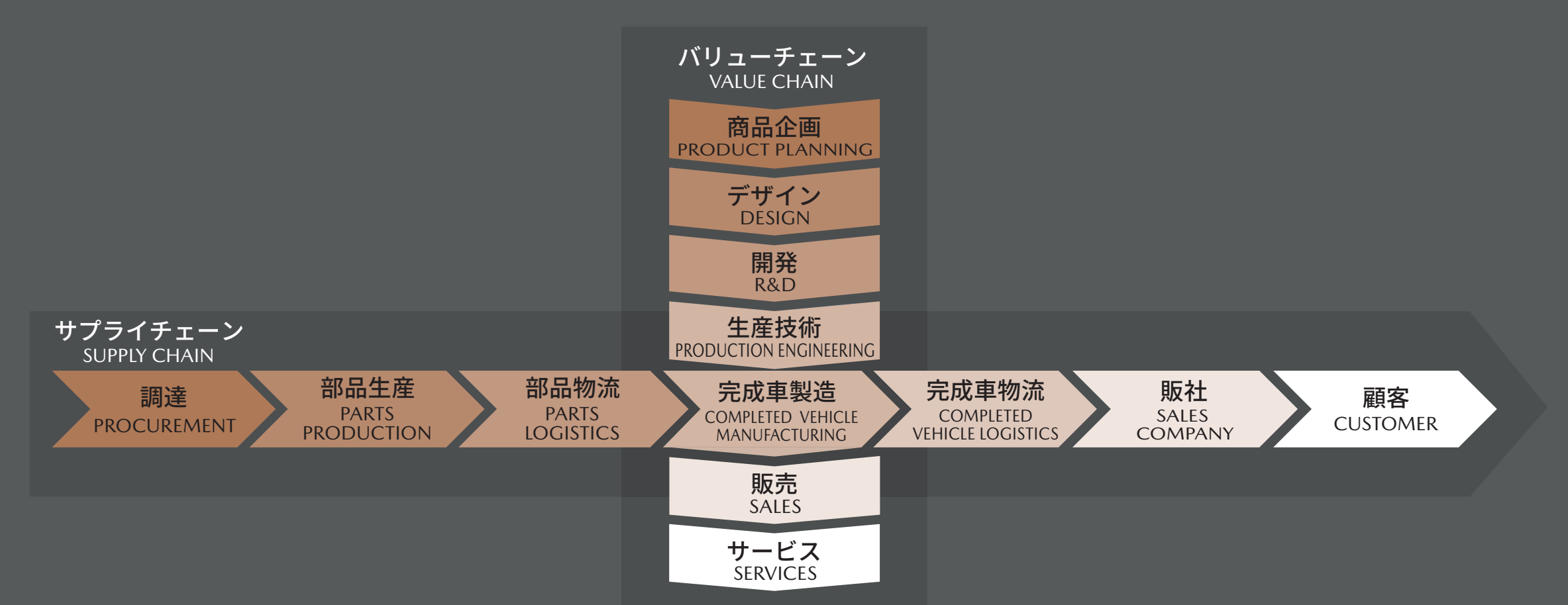
■ 人とITの共創による価値創造

人の能力を最大限引き出せるよう人間の研究を推進。



■ 原価低減とサプライチェーン強靱化

サプライチェーン/バリューチェーンで原価低減力・減産抵抗力を強化する取り組み。



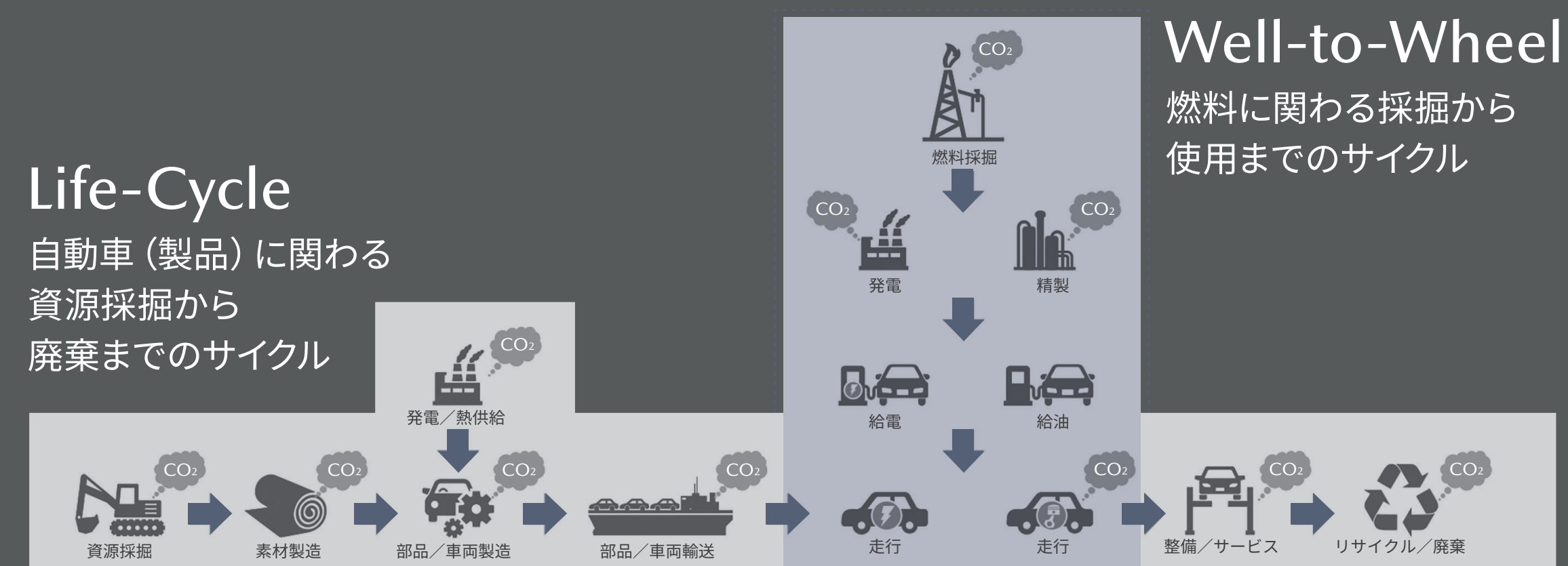
2050年 カーボンニュートラルへの挑戦

Endeavor for carbon neutrality by 2050

マツダは、2050年のサプライチェーン全体でのカーボンニュートラルへの挑戦を宣言しました。クルマのライフサイクル全体での視点（LCA）と、燃料に関わる「Well-to-Wheel」視点の両面でCO₂削減に取り組んでいます。

Mazda announced that it will endeavor to achieve carbon neutral(CN) for its entire supply chain by 2050. We make efforts to reduce CO₂ emissions from both perspectives of “well-to-wheel” and of reducing emissions over a car’s entire lifecycle.

マツダの視点：「Well-to-Wheel」「LCA」

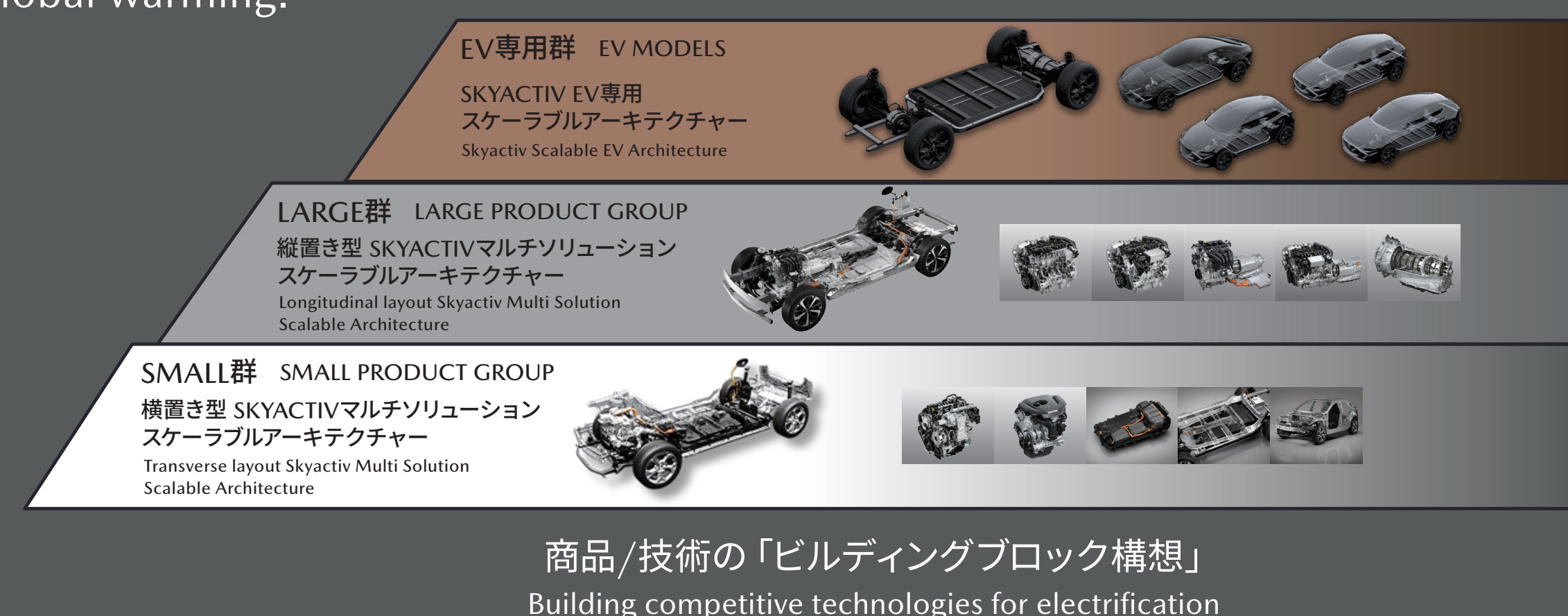


2030年に向けた商品の電動化

Product electrification for 2030

2030年には、生産する全商品に電動化技術を搭載予定。BEV比率は25～40%を想定。3つのフェーズを経て、地域特性と環境ニーズに適した電動化戦略を進め、地球温暖化抑制の解決に貢献していきます。

By 2030, 100% of Mazda products will be electrified and pure-electric vehicles will account for 25 to 40% of those. Throughout the three phases, we will steadily implement an electrification strategy suited to local characteristics and requirements for the environment to make contributions to solving social issues and curbing global warming.

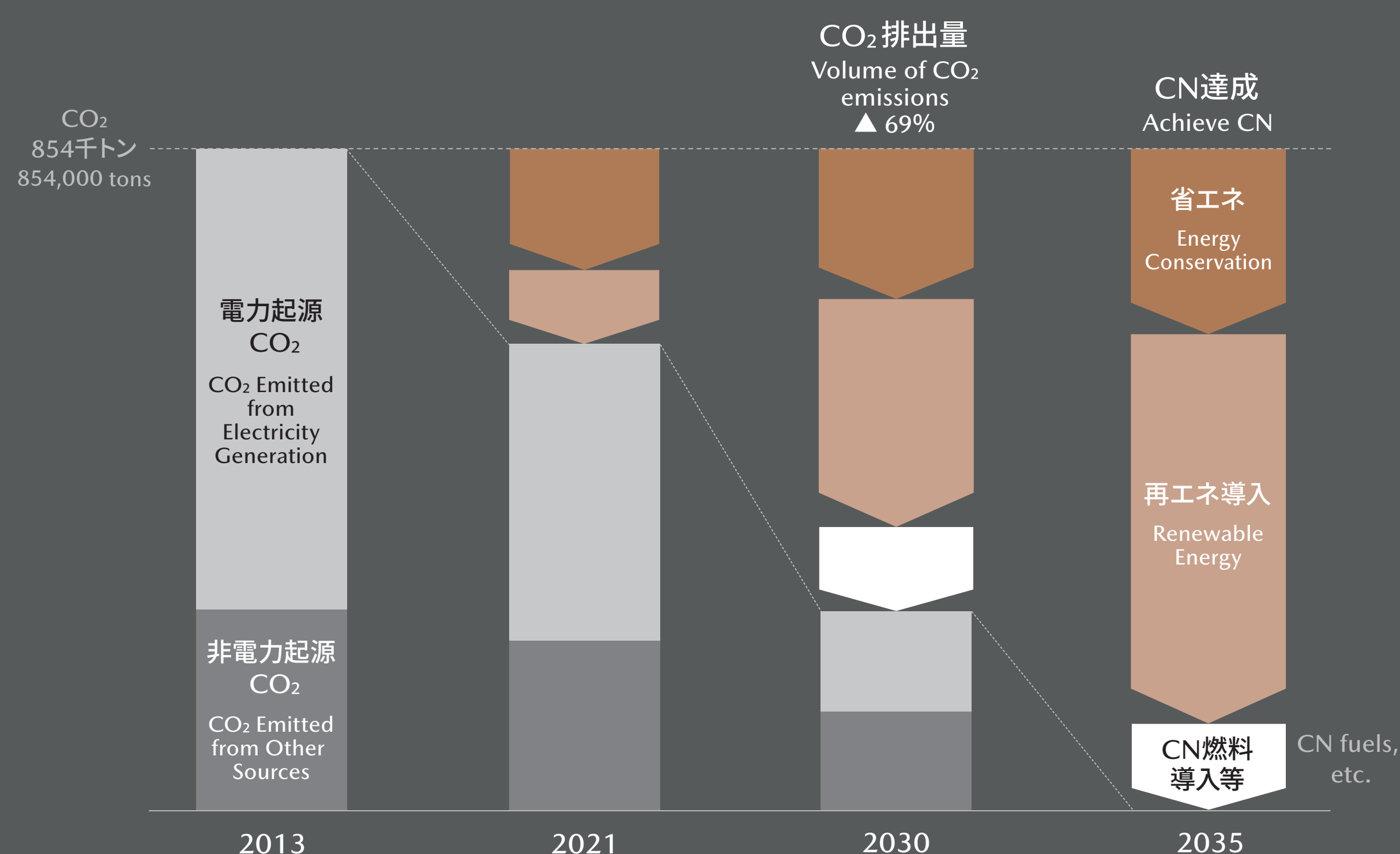


2035年に向けた事業の脱炭素化

Efforts towards CN business for 2035

2035年にグローバル自社工場でのCNを実現するため、グローバルでのCO₂排出量の約75%を占める国内の自社工場と事業所における中間目標とロードマップを具体化しました。中間目標として、2030年度にCO₂排出量を2013年度比で69%削減することを目指します。

Mazda specified the medium-term targets and roadmap towards achieving CN at its plants and operational sites in Japan, which account for approximately 75% of its global total CO₂ emissions, as part of its efforts to attain CN at all Mazda plants globally by 2035.



省エネ Energy conservation

- CO₂排出量削減の効果が高い設備投資を加速
- 生産性改善、設備の高効率化および業務効率化
- 技術革新（塗装吹付塗着効率の向上、熱処理炉の低温化など）

再エネ導入 Introduce renewable energy

- 本社工場内発電設備を石炭からアンモニア専焼へ燃料転換
- 各拠点における地域と連携したコーポレートPPA※1)の活用
- 電力会社から再生可能エネルギー等非化石電源由来電気の購入

※1) Power Purchase Agreement

CN燃料導入等 Introduce CN fuels, etc.

- 中国地域創出のJ-クレジット（森林吸収）取得
- 社内輸送車両などの燃料を次世代バイオ燃料などへ転換



CX-60 Biofuel Vehicle
公道実証車



太陽光発電設備

研究開発におけるDXの取り組み事例

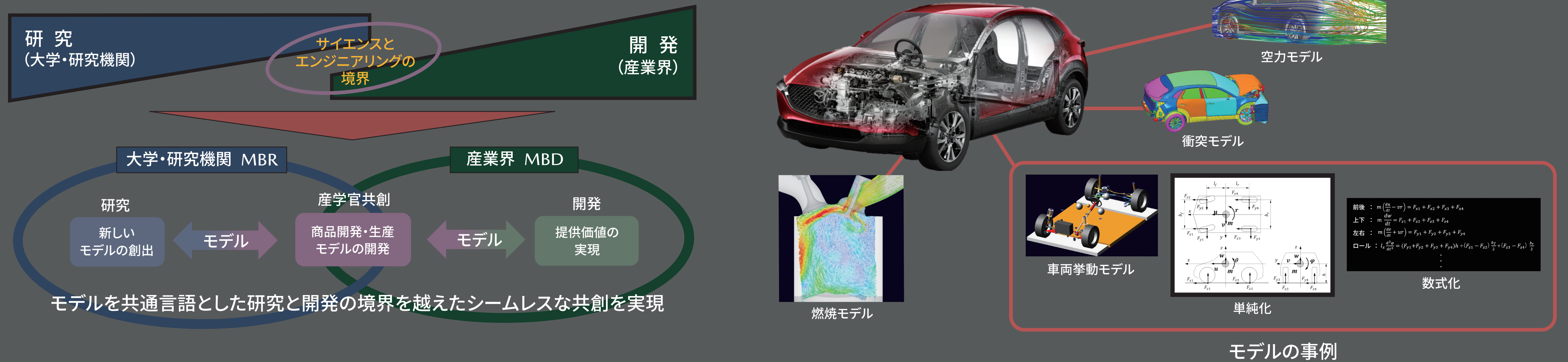
Examples of DX in research and development

移動体験の感動を創造し、一人ひとりの「生きる歓び」に貢献するために、MBD (モデルベース開発)/ MBR (モデルベースリサーチ) + AIを活用し、人の能力を最大限に引き出す研究開発を推進しています。

To contribute to each person's "Joy of Living" by creating moving and emotional experiences, Mazda is promoting R&D that brings out the maximum potential of humans by MBD (Model Based Development)/MBR (Model Based Research) + AI.

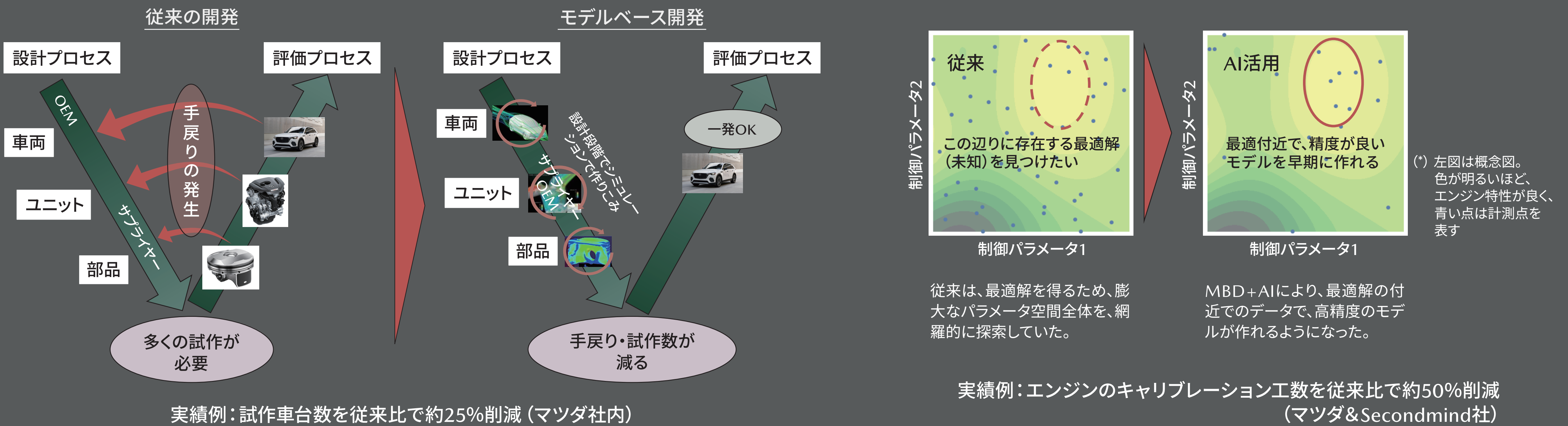
■ 開発効率化と新価値創造に貢献するMBD/MBR MBD/MBR contributing to development efficiency improvement and new value creation

MBDとは、現象や振る舞いを数式化したモデルを使って、机上で商品開発を行う取り組み。共通のモデルによる会社間・部署間連携で効率化が可能となる。
MBRとは、大学等での基礎研究にシミュレーション技術を活用し、産学で共通のモデルを使用することで「サイエンスとエンジニアリングの境界」を越える取り組み。



■ MBD/MBR + AIの期待効果 - 効率化 Expected achievements with MBD/MBR+AI - Efficiency

- ① 従来は設計、試作、実験、再設計...を繰り返していた。MBDにより、OEMとサプライヤーの並行開発や、試作の最少化ができる。
- ② AI活用で、CASE時代の複雑化した最適解探索に対応。従来の人・実機 (試作・実験・ノウハウ) に頼った開発から、大幅な効率化ができる。



■ MBD/MBRの期待効果 - 新価値の創造 Expected achievements with MBD/MBR - New Value Creation

- ① MBRにより背反関係にある断熱・吸音機能を高次元で両立させた世界初の素材・部品を開発。(第74回 (2024) 自動車技術会 技術開発賞受賞)
- ② ドライバーの異常を予兆段階で検出する技術を開発。脳科学に基づき意識低下・無意識時の注意・視線の誘因性を画像の色や輝度などから数値化できるサリエンシー^{※1}でモデル化。



もっと人・社会を幸せにしたい

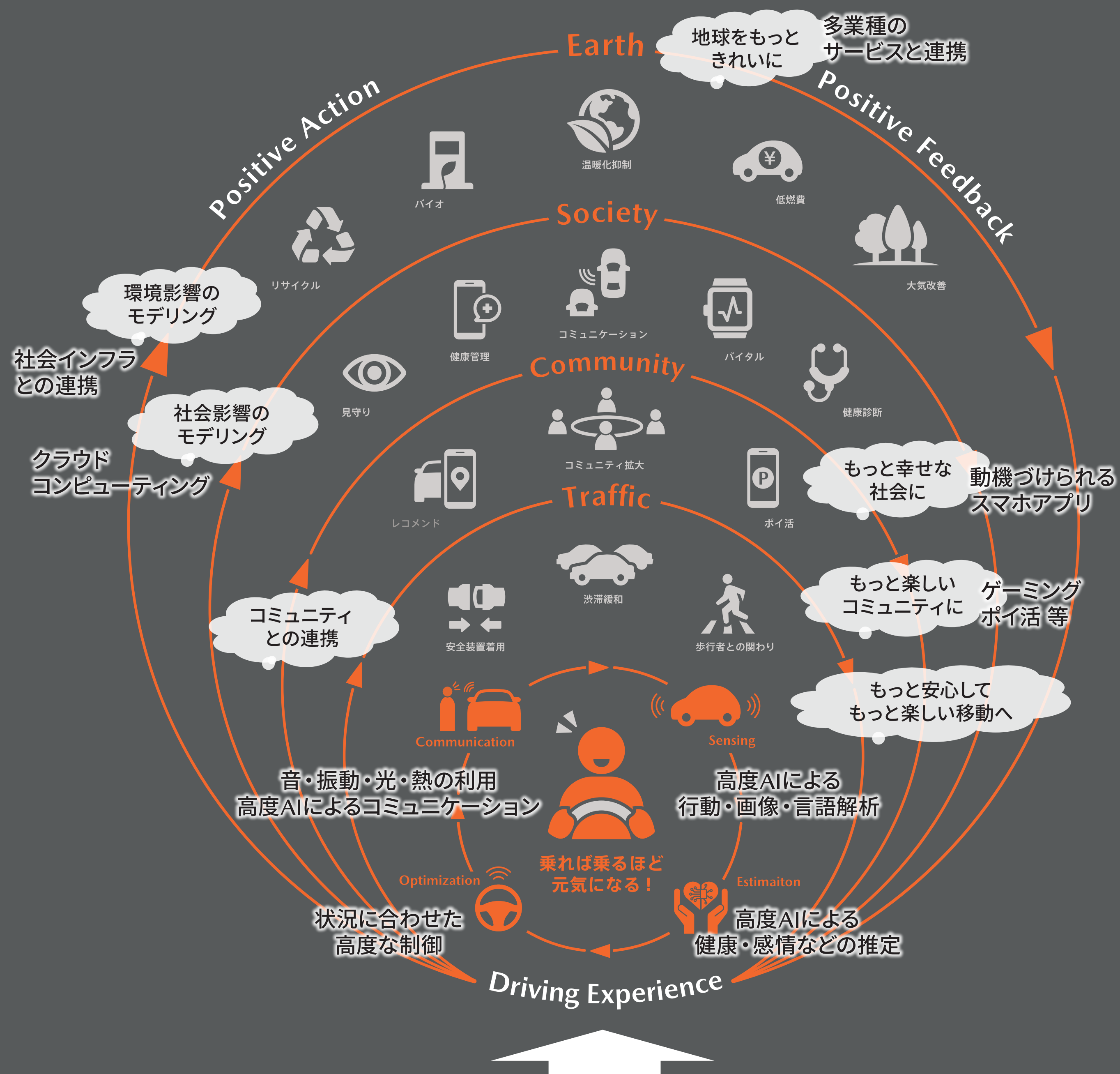
＜我々が目指す体験＞

乗れば乗るほど元気になる!!

- ・ 運転が苦手なわたしでも、安心してドライブできて、新しい世界が広がる
- ・ いつまでも、自分の力で移動できて、コミュニティとの絆が深まる

<求める技術>

さりげなく、人や社会の状態を理解し、支援してくれる技術

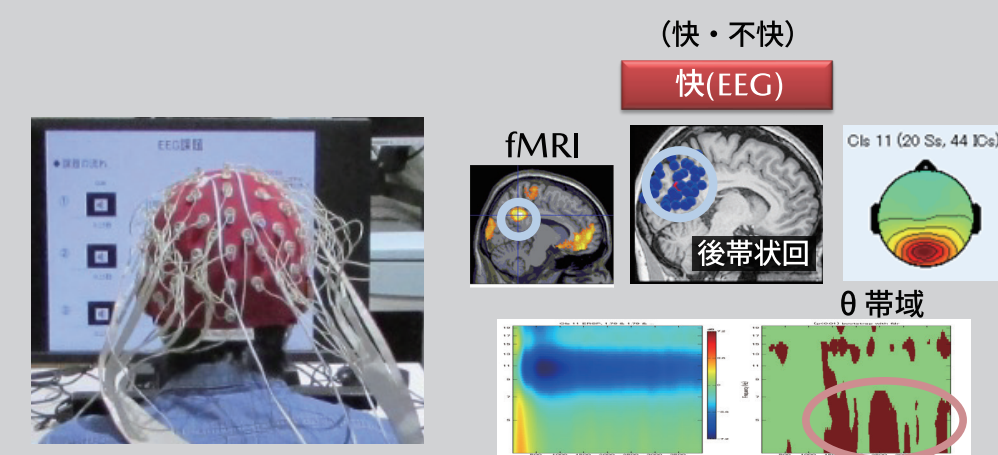


基礎研究の事例※

知覚や感性を人の外から推定



知覚の反応の予測と実視線を同時に測る



感性を脳波などから推定する

人の本質の追求

